

内発的動機づけを高める自己評価シートの授業実践

脇田里子 越智洋司
福井大学 留学生センター 近畿大学 理工学部

1. はじめに

近年、学生の主体的な学習を支援する授業として、学生参加型授業、協調学習、フレキシブル・ラーニングなどが提唱されている。学生の主体的学習を支援する方法として、学生がもっとも関心をもつ成績評価に着目する。学生の成績評価に対する動機づけを高めることにより、主体的学習を支援することを目的とする。

目的を達成する方法として、成績評価を心理学における内発的動機づけ理論に従い、自己評価を試みる。内発的動機づけ理論の中で、とりわけ、クルグルンスキ(Kruglanski, 1978)が提唱した内生的帰属説を取り上げる。目的を達成するための手続きとして、内発的動機づけを高める自己評価の手続きを述べる。2003年後期、福井大学「異文化教育論」において自己評価シートを実践をしており、その結果を述べる。

2. 内発的動機づけ

心理学の達成動機理論の中に、「外発的動機づけ（活動と報酬の間に固有の結びつきがなく、報酬を得るために活動が遂行されること）」と「内発的動機づけ（その活動自体から得られる快や満足のために活動が遂行される）」という考え方がある。クルグルンスキの認知理論による「内生的-外生的帰属説」では、「内生的帰属とは、行為の理由が行為自身に帰属されることを指し、その際、行為それ自体が目的であると知覚されるとともに正の感情を感知させる。一方、外生的帰属とは、行為がある目的を達成する手段として知覚されることを指し、負の感情を感知させる。」(宮本他：1995)

3. 成績評価と内発的動機づけ

一般的に、授業における成績評価は学生にとって報酬と考えられる。授業で学生がよい成績評価を得るための学習行為をクルグルンスキの「内生的帰属説」の枠組みで解釈する。つまり、学習行為と学習行為自体が目的であると認知すること、すなわち、自己目的性の認知は正の感情を喚起させ、後の内発的動機づけを高めると予測される。この場合、成績評価（報酬）に関係なく、自律的に学習は継続される。

では、よい成績評価を得るための学習行為を内生的帰属説として認知するにはどうしたらよいか。外生的帰属説と内生的帰属説の違いは、同じ行為を手段性と認知するか、目的性と認知するかにある。そして、その違いを正の感情と捉えるか、負の感情と捉えるかにある。つまり、学生がよい成績を得るために、学習する行為を、学習させられていると感じさせず、学習自体が目的であるように誘導すればよい。

4. 内発的動機づけと自己評価

まず、学生が内発的動機づけにおける「内生的-外生的帰属説」の考え方を認識するこ

とが大切である。「行為」「手段」「目的」の中で、内生的帰属説は、ある「行為」とその行為自体が「目的」で一致すれば、正の感情が生じ、後の内発的動機づけを高めると考える。教師が提示した成績評価をよくするための具体的な学習行為の評価をよくするための「手段」と捉えるのではなく、その学習行為自体が「目的」と捉えるように認識を変える指導をする必要がある。

次に、学生が自分の学習過程を自己評価し、成績の予測可能性を高める環境を提供することが大切である。自己評価の中で、内発的動機づけを高めるような項目を含める必要がある。学生が学習過程を自己評価するには、教員は成績評価に関する具体的な評価項目と基準、過程を学生に示す必要がある。

5. 自己評価シート

初回の授業で、内発的動機づけの考え方を提示する。次に、各学生の希望する成績評価を示させる。成績評価の具体的な評価項目と基準、過程を学生に示す。成績評価の評価項目と基準は以下の通りである。評価項目は次の3つで、前者2つは自己評価シート（1シートの表裏）として実施する。(1)「学習活動面の自己評価」（1授業内の学習活動、2授業外の学習活動、3次回までの学習目標の各小項目をチェックした後、点数化し、グラフ化する。）(2)「内容理解面の自己評価」（毎回の授業内容に関する小テストを実施し、点数をグラフ化する。）(3)「テスト・レポートの評価」。これら3つの評価項目の評価比重は同等に扱う。

6. 現在までの結果とまとめ

2003年後期、福井大学の学部専門科目「異文化教育論」において、自己評価シートを実践している。この授業は教師による講義とグループによる話し合いを中心にした授業形式である。2003年10～11月の実践結果として、自己評価シートを毎時の授業終了時に記入することにより、学生の学習活動面、および、講義内容のまとめや振り返りが有益であると思われる。自己評価シートでは毎回の評価項目を点数化し、それを折れ線グラフ化している。現在までの自分の結果が一目瞭然である。なお、具体的な基準を設けて学習活動面の自己評価を試みているが、学生によっては自分に甘い評価をしている者も見受けられる。

本発表では、学生の成績評価に対する動機づけを高めることで、主体的学習を支援することを目的とし、成績評価を内発的動機づけと捉え、自己評価シートを授業実践した。毎時の授業終了時に、学生が自己評価による学習把握シートを記入し、成績評価をフィードバックすることにより、学習状況を把握し、次に何を学習すべきかを考えさせるといった主体的学習を支援する。

参考文献

宮本美沙子他編（1995）「達成動機の理論と展開 続・達成動機の心理学」、金子書房
脇田里子・越智洋司（印刷中）「内発的動機づけを高める自己評価の試み」、メディア教育
開発センター報告書